

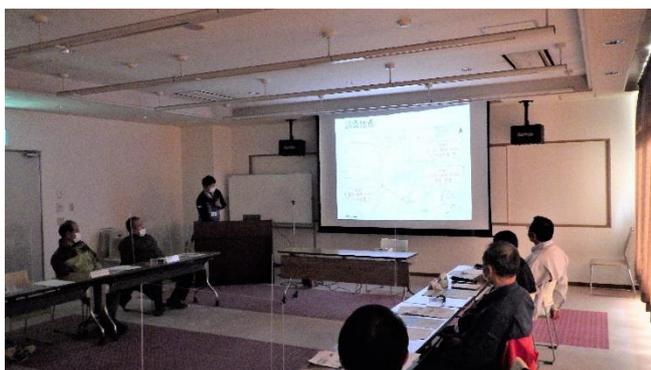
第2回大山のナラ枯れを考えるワークショップの開催について

令和3年11月14日（日）、鳥取県ナラ枯れ被害対策協議会（以下「協議会」という。）が主催する「大山のナラ枯れを考えるワークショップ」が休暇村奥大山にて関係者25名が出席し開催されました。

当ワークショップは、ナラ枯れ対策を行う行政関係者と、大山周辺で活動する民間の自然保護団体等が、有識者の指導の下で、ナラ枯れ被害の仕組みや発生原因等を学習し、ナラ枯れに対する向き合い方や対策等について、自由に意見交換を行うと共に相互連携について検討する場として昨年度から開催されています。

初めに、協議会の事務局（鳥取県庁森林づくり推進課）から、今年度のナラ枯れ被害と対策について説明がありました。

主な事項として、「被害数量は気候的要因等が影響し、県内の被害量は対前年比約30%に減少した」こと、「対策は従前の被害対策に加え、森林（ミズナラ林）の再生について取り組むこととし、被害跡地において植生モニタリング調査を実施している」ことが紹介されました。



【ワークショップの様子】

続いて、鳥取大学農学部 加藤ひなの氏 から「2021年奥大山ナラ枯れ被害の状況」について研究成果の報告と、株式会社エスジーズから「ナラ枯れ被害跡地におけるモニタリング調査」を実施した調査結果について報告がありました。

その後、鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター准教授 山中啓介氏をコーディネーターとし、質疑・意見交換が行われました。

主な意見として、「ナラ枯れ被害対策は長期に渡り、非常に困難な課題となっている」、「森林の再生には科学的な知見に基づき、目標や方針を定め実施することが重要」、「大山周辺でのナラ枯れ調査、研究内容を関係者間で都度情報共有する」、「カシノナガキクイムシに穿孔され被害を受けても夏の雨（7月）が多いと枯れにくい」、「枯れた個体も数年後に再生することがある（現在調査中）」等の意見が出されました。

後半は、ナラ枯れ被害跡地で実施しているモニタリング調査地を視察し、笹覆地となっている林内の下層植生状況等を確認しました。



【現地視察の様子】



【ミズナラの稚樹】

当署としても、引き続き協議会の基本方針に基づき「防除対策の徹底」、「被害跡地の再生」に向け積極的に取り組むこととし、鳥取県をはじめとした関係機関と連携して大山の森林環境を保全していくこととしています。